

RYUKOKU UNIVERSITY 龍谷大学



国際文化学部 国際文化学科

5.17.Thu. at Seta
13:35~15:05
清水 耕介 教授



軽妙トークで引き出される 「平和」を学ぶ能動的姿勢

講義の流れ
ルワンダやパレスチナの紛争などを具体的な事象として取り上げ、現代の世界における「平和」について議論する。
醍醐味
先生・学生間の活発な意見交換により、他者の多様な考え方に触れられる。同時に自分の考えを深化させ、発表する力も身につく。

大教室で繰り広げられる 学生参加型のレクチャー

琵琶湖南端の豊かな自然に囲まれた瀬田キャンパス。そこに2010年4月に完成した新教室棟の目玉とも言える、およそ600名のキャパシティを誇る円形の階段教室が今日の講義「平和学入門」の舞台だ。清水耕介先生が登壇する頃には、教室の最後列まで学生で埋め尽くされた状態に。壇上に注目する彼らの表情には、何かに期待するような高揚感と緊張感が入り混じる。

「それじゃ、先週出してもらったコメントからいくね。『戦争と紛争の違いが正直よくわかりません』と



「じゃあ、前回紹介したルワンダの紛争みたいにも、清水先生の問題提起は続く。『実は今の時代、『紛争』はあっても『戦争』はあまり存在しないという考え方もあるんだけど、なぜだと思ってる？ 何が変わってきたらいいんだろ？』。数十秒の沈黙を経て『武器が変わった』『規模が大きくなった』といった意見が出始める。その一つひとつに『ああなるほどね』と頷く先生。決して否定はしないものの、『ほかに？』と別の意見を求め続ける。そうこうするうちに、ある学生から『宣戦布告をせずに、いきなり始まるようになった』という意見が浮上。『なるほど、今の意見にはヒントがあるね。9.11のテロもそうだけど、国が正式に宣戦布告をして始まったわけじゃないよね。つまり、戦争より広い意味で捉えられるのが紛争で、世界はいま、紛争が起きている状況にあると言えないかな』。清水先生は『こんなふうにして、問題の核心に迫る答えが学生側から出るまで待ち続け、その答えをもとにさらに次の段階へ導くのだ。』

戦争と紛争の概念を明らかにし いま、何ができるかを検討

「援助物資を送る」「抗議活動をする」といった一般的な人道支援策が先行。しばらくして「原因や問題を明らかにして、次の紛争が起きないようにする」という新たな意見が飛び出すと、『おっ！私好みの答えが出たね。』どうやら清水先生が導きたい方向へ、また一歩前進したようだ。



暴力を正当化しかねない 社会の構造を問い直す

清水先生はルワンダの虐殺事件に触れながら再び問いかける。「あの紛争におけるツツ族のツチ族に対する虐殺行為は当然許されるものではないよ。でももしも、ツチ族の抵抗勢力が盛り返すことなく絶滅させられていたら、どうなっていたら？」。「国際社会から非難を浴びる」「新たな争いが起きる」「他国へ侵攻する」など、ひと通りの意見を聞いた後、『私はまったく逆のことを考えたよ』と先生。「たとえば、他国から非難されようとも、当のルワンダ政府が問題にしなければ、虐殺なんてなかったことになるんじゃないか。むしろ国の安定化を導いた美談として語られるんじゃないか。その可能性ってない？」

「自分たちもそんな力の論理に守られた社会にいてもいいんじゃないか」という前提に立って、今の社会が本当に正しいのか、もう一度問い直してみたい」と清水先生は訴えかける。自分たちの社会に対して疑問符を投げかける、その姿勢が平和学への第一歩なのだ。

VOICES 学生の声 of University Students



山田 剛志さん(中央)
国際文化学部1年
もともと宗教対立や平和について興味があり、紛争問題を通していろいろ考えられるかと思いましたが、清水先生はもちろん、みんなから出される意見は、僕の想像を超えるものが多く、それがとても刺激になっています。

阪本 紅玲亜さん(左)
国際文化学部1年
400人以上の学生を相手に参加型の講義をやったのって、清水先生の型に合わないスタイルにまず驚きました。人数が多いぶん、少人数のゼミよりも多様な意見が出合え、新たな発見をしたり理解を深めたりできます。発言を重ねることで度胸もつきますよ。

溝口 佳祐さん(右)
国際文化学部1年
いろいろなテーマを通して、「平和」についてとことん考えさせられる講義です。平和に対する自分の画一的な概念を改めてきかっけにもなりました。周りの人の意見も参考にしながら、考えをまとめて発表するのがすごく楽しいです。



しみず こうすけ
清水 耕介先生

龍谷大学国際文化学部教授、同大学アフラシア多文化社会研究センター長。ニュージーランド国立ヴィクトリア大学政治学国際関係学大学院博士課程修了。博士(国際関係学)。専門は、国際関係、国際政治経済学、政治思想。とりわけ、国際関係に生じる暴力のさまざまな問題に精通。近年の主な研究テーマは、国際関係の変化のプロセスと暴力・文化の関係について。近著(共著)に『紛争解決 暴力と非暴力』(2010年、アフラシア叢書)がある。

龍谷大学

- 文学部
- 経済学部
- 経営学部
- 法学部
- 政策学部
- 理工学部
- 社会学部
- 国際文化学部
- 短期大学部

【沿革・歴史】

- 1639年 京都西本願寺境内に学寮が竣工され龍谷大学の歴史が始まる。
- 1655年 幕府の命令により学寮を破却、以後「学林」と称す。
- 1876年 学林を大教校と改称する。
- 1879年 大教校落成。 ※現在の太皇太后キャンパス(京都市)本館など。
- 1922年 旧制大学令による認可を受け、龍谷大学と改称。
- 1949年 新制大学令による龍谷大学となり、文学部(4年制)を開設。
- 1950年 短期大学部開設。
- 1960年 深草キャンパス(京都市)開設。
- 1961年 経済学部を開設。
- 1966年 経営学部を開設。
- 1968年 法学部を開設。
- 1989年 瀬田キャンパス(大津市)開設。理工学部、社会学部開設。
- 1996年 国際文化学部開設。
- 2009年 創立370周年。
- 2011年 政策学部開設
龍谷ミュージアム開館。

資料の請求および
お問い合わせ先

T612-8577 京都市伏見区深草塚本町 67 入試部
TEL 075-645-7887 FAX 075-645-4155
PC <http://www.ryukoku.ac.jp/admission/>
携帯 <http://www.ryukoku.ac.jp/admission/mobile/>

【オープンキャンパス情報】

- 瀬田キャンパス
7月22日(日) 10:00~16:00(予定)
- 深草キャンパス
8月6日(月)・7日(火) 10:00~16:00(予定)
- 瀬田キャンパス
8月25日(土) 10:00~16:00(予定)
- 深草キャンパス
9月30日(日) 10:00~16:00(予定)

詳細は、龍谷大学入試情報サイト
(<http://www.ryukoku.ac.jp/admission/>)
でご確認ください。